

醍醐 龍馬

法学研究科・准教授

【研究】

令和6年度は、論文2本、MISC3本を刊行し、口頭報告を4本したほか、東アジア近代史学会の大会シンポジウムとして企画した「東アジア近代史における『ロシア』という存在」の特集号が刊行された。また、科研費(挑戦的萌芽)による個人研究を進めながら、共同研究の代表者を務める科研費(基盤研究B)の研究会を年2回開催した(北海道稚内市、三重県津市)。さらに、会長を務めている日露関係史研究会では例会を4回開き(第37～40回例会)、うち1回については北海道史研究協議会との共催企画にするなど他学会との学術交流も促進した。

【教育】

学部教育では、全学1年次対象の「学問への扉」、法学部2年次以上を対象にした日本政治史、大学院教育では、日本政治史のほか留学生を対象にした日本政治総合演習を開講した。また、日本政治史専攻の大学院生1名の研究指導を行った。そのほか、修士論文1本の副査などを務めた。

【管理運営】

資料室室員及び大阪大学法学部青雲会学内幹事などを務めた。特に青雲会学内幹事としては、2か月に1回の幹事会に出席したほか、青雲会学生部(Law Crew)の立ち上げに向けたWGに入り学生たちのサポートを行った。そのほか、全学の役職としては、大阪大学アーカイブズ法人文書資料部門兼任教員および大阪大学先導的学際研究機構グローバルヒストリー研究部門兼任教員を務めた。

【社会貢献】

学会関係の役職では、日露関係史研究会会長、東アジア近代史学会理事、サハリン樺太史研究会世話人を務めた。社会での役職としては、小樽市文化財審議会委員、大阪大学法学部青雲会幹事を務めた。そのほか、市民講座を1回、市民向けシンポジウムを1回開くなど専門分野の知見を社会に広く還元した。